

科目名	ベーシックレッスン 2								年度	2024
英語科目名	Basic lesson 2								学期	後期
学科・学年	ミュージックアーティスト科 ヴォーカリストコース 1年次	必／選	必	時間数	210	単位数	7	種別※	実習	
担当教員	柿崎光、MARI、青野りえ			教員の実務経験	有	実務経験の職種		ミュージシャン		
【科目の目的】										
安定した声を養成するために、身体の使い方を理解する。ヴォーカルテクニックの基本レッスンで学んだ実際の楽曲2曲を発声の観点から分析し、ヴォーカリストとしての基礎力を身につけ、音楽全般の基礎知識を学ぶ。それに加え、レベルに合わせたトレーニングを通じて、オーディションやコンテストに備える準備と進め方を学ぶ。										
【科目の概要】										
ヴォーカリストとしての基礎力を身につけるため、基礎レッスンを行うとともに、音楽全般に関する基礎知識を学んでいきます。また、ソロやバンドなどレベルにあわせたトレーニングを実施。各種オーディションを受けるにあたっての準備、進め方を学び、実践していきます。										
【到達目標】										
A. 安定した声を身につけるために、自分の身体の使い方を知る。 B. 声の種類 2 種と、その声を実際に使用しているアーティストを把握する。 C. ベーシックレッスン「ヴォーカルテクニック」の授業で学んだ実際の楽曲 2 曲を発声の観点から分析できる。										
【授業の注意点】										
この科目は開講曜日により担当教員が異なります。専門学校は、社会人としての行動・あり方を学ぶ「職業訓練」の場であるという考えから、他の授業・実習と同様、出席状況については厳しく評価する。また、授業中の態度（居眠り、私語など）にも厳しく対応する。卒業後の自分自身の生きる力を得るものであり、自分自身のこととして主体的な考え方をもち、積極的な姿勢で授業に参加してほしい。なお、授業時数の 4 分の 3 以上出席しない者は定期試験を受験することができない。										
評価基準＝ルーブリック										
ルーブリック 評価	レベル3 優れている			レベル2 ふつう			レベル 1 要努力			
到達目標 A	安定した声を身につけるために、自分の身体の使い方を知る			自分の身体の使い方を知る			到達目標Aについてさらなる努力が必要			
到達目標 B	声の種類 2 種と、その声を実際に使用しているアーティストを把握する			声の種類 1 種と、その声を実際に使用しているアーティストを把握する			到達目標Bについてさらなる努力が必要			
到達目標 C	ベーシックレッスン「ヴォーカルテクニック」の授業で学んだ実際の楽曲 2 曲を発声の観点から分析できる			ベーシックレッスン「ヴォーカルテクニック」の授業で学んだ実際の楽曲 1 曲を発声の観点から分析できる			到達目標Cについてさらなる努力が必要			
【教科書】										
適時、講師より教材を配布する。										
【参考資料】										
特になし										
【成績の評価方法・評価基準】										
評価基準はルーブリック評価に基づき、試験60%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、授業内発表20%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、平常点20%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)										
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。										

科目名		ベーシックレッスン2			年度	2024
英語表記		Basic lesson 2			学期	後期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	前期復習1	技術の確認	1 スキルチェック	前期技術の理解	3	
			2 前期の復習	ヴォーカルの復習		
			3 ヴォーカル練習	歌唱実技ができる		
2	前期復習2	技術の確認	1 スキルチェック	前期技術の深化	3	
			2 テクニック復習	ヴォーカル応用練習		
			3 歌唱練習	歌唱技術の習熟		
3	声帯理解1	声帯活用1	1 声帯の学習	声帯機能の理解	3	
			2 筋肉の動かし方	筋肉の動きの学習		
			3 チェストボイス	チェストボイス発声		
4	声帯理解2	声帯活用2	1 声帯の深掘り	声帯動きの応用	3	
			2 筋肉の応用	筋肉の動きの習熟		
			3 ヘッドボイス	ヘッドボイス発声		
5	表現分析1	アーティスト研究	1 アーティスト分析	アーティスト分析 1	3	
			2 声の特徴学習	声の特徴の理解		
			3 表現方法学習	表現方法の研究		
6	表現分析2	アーティスト研究	1 アーティスト探究	アーティスト分析 2	3	
			2 楽曲分析	声の特性の深掘り		
			3 声の特性分析	表現方法の応用		
7	音域練習1	ウォームアップフレーズ	1 音域のアーティスト	発声テクニックの習得	3	
			2 発声練習法	広い音域での歌唱		
			3 テクニック習得	練習方法の確認		
8	音域練習2	ウォームアップフレーズ	1 音域の探求	発声テクニックの強化	3	
			2 発声応用練習	音域歌唱の実技		
			3 テクニック確認	練習方法の応用		
9	共鳴技法1	人体構造	1 共鳴の学習	共鳴ポジションの習得	3	
			2 前期共鳴復習	ヴォイストレーニング		
			3 ヴォイス練習	共鳴での発声練習		
10	共鳴技法2	人体構造	1 共鳴・発音	母音・子音の響き強化	3	
			2 子音・母音	共鳴ポジション活用		
			3 声の響き増幅	声の増幅技法習得		
11	音域拡大1	ウォームアップフレーズ	1 音域拡大法	音域拡大の方法学習	3	
			2 声のトレーニング	トレーニング法の理解		
			3 練習ルーティン作	ヴォイストレーニング計画		
12	音域拡大2	ウォームアップフレーズ	1 音域の深掘り	音域拡大の方法応用	3	
			2 トレーニング法	トレーニング法の習熟		
			3 個別ルーティン	独自のルーティン作成		
13	整理1	復習・確認	1 前期後期復習	前後期の総復習	3	
			2 成果の理解	トレーニングの確認		
			3 トレーニング振り返り	成果の自己評価		
14	整理2	復習・確認	1 成果の再確認	全期間の復習深化	3	
			2 振り返り	トレーニングの習熟		
			3 期末試験対策	成果の確認と評価		
15	まとめ	授業内試験	1 技術の最終確認	期末試験の対策	3	
			2 振り返り	期末試験の受験		
			3 実技パフォーマンス	技術の総合評価		

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等

科目名	ベーシックレッスン 2							年度	2024
英語科目名	Basic lesson 2							学期	後期
学科・学年	ミュージックアーティスト科 ヴォーカリストコース 1年次	必／選	必	時間数	210	単位数	7	種別※	実習
担当教員	平山雅月・早川咲	教員の実務経験		有	実務経験の職種		ミュージシャン、ボイストレーナー		
【科目の目的】									
Major Keyの1オクターブ内で音程をコントロールし、ビブラートやしゃくり、フォールダウンなどの2つの基礎的なテクニックを習得し、これらの技術を本番環境で安定して適用できるようにする。これにより、ヴォーカリストとしての基礎力が向上し、基礎レッスンや音楽全般に関する基礎知識の学習を通じて、レベルに合わせたトレーニングを実施し、各種オーディションやコンテストに備える。									
【科目の概要】									
ヴォーカリストとしての基礎力を身につけるため、基礎レッスンを行うとともに、音楽全般に関する基礎知識を学んでいきます。また、ソロやバンドなどレベルにあわせたトレーニングを実施。各種オーディションを受けるにあたっての準備、進め方を学び、実践していきます。									
【到達目標】									
A. Major Keyの1オクターブ内の範囲内において、音程のコントロールができる。 B. ビブラートやしゃくり、フォールダウンなどにおいて2種類の基礎的なテクニックが習得できる。 C. 本番環境において、授業で学んだ技術の安定感がある。									
【授業の注意点】									
この科目は開講曜日により担当教員が異なります。専門学校は、社会人としての行動・あり方を学ぶ「職業訓練」の場であるという考え方から、他の授業・実習と同様、出席状況については厳しく評価する。また、授業中の態度（居眠り、私語など）にも厳しく対応する。卒業後の自分自身の生きる力を得るものであり、自分自身のこととして主体的な考え方をもち、積極的な姿勢で授業に参加してほしい。なお、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック 評価	レベル3 優れている	レベル2 ふつう			レベル1 要努力				
到達目標 A	Major Keyの1オクターブ内の範囲内において、音程のコントロールが正確にできる	Major Keyの1オクターブ内の範囲内において、音程のコントロールがややできる			到達目標Aについてさらなる努力が必要				
到達目標 B	ビブラートやしゃくり、フォールダウンなどにおいて2種類の基礎的なテクニックが習得できる	ビブラートやしゃくり、フォールダウンなどにおいて1種類の基礎的なテクニックが習得できる			到達目標Bについてさらなる努力が必要				
到達目標 C	本番環境において、授業で学んだ技術の安定感がある	授業で学んだ技術の安定感がある			到達目標Cについてさらなる努力が必要				
【教科書】									
適時、講師より教材を配布する。									
【参考資料】									
特になし									
【成績の評価方法・評価基準】									
評価基準はルーブリック評価に基づき、1 4 回目にて授業内発表を行い、その巧拙を判定する。60%(知識及び技能のほかにも思考・判断・表現を評価する)、授業後に提出するレポートによる平常点40%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									
科目名	ベーシックレッスン 2							年度	2024
英語表記	Basic lesson 2							学期	後期

回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	前期振り返り	理論復習	1 前期復習	前期内容の理解が深まる	3	
			2 課題曲振り返り	前期の評価ができる		
			3 全体のまとめ	次のステップへの準備		
2	フレーズ学習	旋律解析	1 出だし音学習	出だし音の安定感取得	3	
			2 フレーズおさめ方	フレーズの取り方の習熟		
			3 課題曲1活用	課題曲1への応用力強化		
3	ブレス研究	呼吸法講習	1 ブレスの種類	ブレス技法の習得	3	
			2 ブレス位置学習	ブレス位置の意識強化		
			3 課題曲1活用	課題曲1の表現向上		
4	ボイス技法	装飾音研究	1 しゃくり体感	しゃくりの実践能力	3	
			2 エッジボイス体感	フォールダウンの効果的使用		
			3 ウィスパーボイス	エッジ&ウィスパーボイス習得		
5	リズム体得	タイム感受性	1 リズムトレーニング	リズム感の向上	3	
			2 課題曲2活用	課題曲2とのシンクロ率上昇		
			3 リズムコントロール	安定したリズム保持能力		
6	技法チェック	演奏実践	1 しゃくりチェック	しゃくり等の実践テスト	3	
			2 フォールダウンチェック	各テクニックの統合力向上		
			3 ワンフレーズ技法	技法の応用力を評価		
7	ダイナミクス習得	演奏実践	1 ダイナミクス体得	ダイナミクスの安定操作	3	
			2 課題曲2活用	課題曲2での表現豊かさ		
			3 ダイナミクスコントロール	感情のニュアンスの再現		
8	声門技術	音の始動法	1 声門アタック学習	声門アタックの習得	3	
			2 息抜きの技法	息抜き技法の自然な使用		
			3 課題曲2活用	課題曲2での声の安定化		
9	リズム技法	声のアタック	1 声門アタックリズム	リズム取り技術の向上	3	
			2 アフターで歌う	アフターでの歌唱習熟		
			3 課題曲3活用	食い気味の歌い方の習得		
10	洋楽発音	発音指導	1 洋楽発音学習	洋楽発音の正確さ	3	
			2 洋楽パターン習得	洋楽の発音の自然さ		
			3 課題曲3活用	課題曲3の発音向上		
11	ヴォイス変化	レジスタ変換	1 ミドルからヘッド	ミドルからヘッドへの移行	3	
			2 切り替え方法学習	切り替えのスムーズさ習得		
			3 課題曲3活用	課題曲3での声域使用		
12	表情の付加	音色表現法	1 声の表情付け	声の表情の多様性取得	3	
			2 表情トレーニング	感情の伝達能力強化		
			3 課題曲3活用	課題曲3の深い表現力		
13	伴奏練習	演奏実践	1 ピアノ伴奏練習	講師伴奏への適応力	3	
			2 講師演奏活用	選曲練習の効果的進行		
			3 選曲課題練習	伴奏との一体感習得		
14	実技発表	演奏実践	1 授業内発表	授業内容のアウトプット	3	
			2 生徒の発表	発表を通じた自己評価		
			3 後期のまとめ	他者とのフィードバック受取		
15	後期総括	総評・展望	1 フィードバック	後期内容の理解深化	3	
			2 技術の整理	成果の共有と反省		
			3 今後への展望	次の段階への展望形成		

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等

科目名	ベーシックレッスン 2							年度	2024
英語科目名	Basic lesson 2							学期	後期
学科・学年	ミュージックアーティスト科 ヴォーカリストコース 1年次	必／選	必	時間数	210	単位数	7	種別※	実習
担当教員	平山雅月	教員の実務経験		有	実務経験の職種		ミュージシャン		
【科目の目的】									
メロディーから1度、5度でのハモリの音感を養い、他のパートに引っ張られずに歌えるようにする。提供された楽譜に対して8小節の読譜が可能で、ヴォーカリストとしての基礎力を向上させるために基礎レッスンを実施する。音楽全般に関する基礎知識を学び、レベルに合わせたトレーニングを通じて様々なオーディションやコンテストに備え、実践的なスキルを身につける。									
【科目の概要】									
ヴォーカリストとしての基礎力を身につけるため、基礎レッスンを行うとともに、音楽全般に関する基礎知識を学んでいきます。また、ソロやバンドなどレベルにあわせたトレーニングを実施。各種オーディションを受けるにあたっての準備、進め方を学び、実践していきます。									
【到達目標】									
A. メロディーから1度、5度でのハモリの音感を身につける。 B. 他パートの音につられる事がない様に歌う事ができる。 C. 配布された譜面に関して、8小節の読譜ができる。									
【授業の注意点】									
この科目は開講曜日により担当教員が異なります。専門学校は、社会人としての行動・あり方を学ぶ「職業訓練」の場であるという考えから、他の授業・実習と同様、出席状況については厳しく評価する。また、授業中の態度（居眠り、私語など）にも厳しく対応する。卒業後の自分自身の生きる力を得るものであり、自分自身のこととして主体的な考え方をもち、積極的な姿勢で授業に参加してほしい。なお、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック 評価	レベル3 優れている	レベル2 ふつう		レベル1 要努力					
到達目標 A	メロディーから1度、5度でのハモリの音感を正確に身につける	メロディーから1度、5度でのハモリの音感をやや身につける		到達目標Aについてさらなる努力が必要					
到達目標 B	他パートの音につられる事がない様に歌う事ができる	楽曲を歌う事ができる		到達目標Bについてさらなる努力が必要					
到達目標 C	配布された譜面に関して、8小節の読譜ができる	配布された譜面に関して、4小節の読譜ができる		到達目標Cについてさらなる努力が必要					
【教科書】									
適時、講師より教材を配布する。									
【参考資料】									
特になし									
【成績の評価方法・評価基準】									
評価基準はルーブリック評価に基づき、1 4 回目にて授業内発表を行い、その巧拙を判定する。60%(知識及び技能のほかにも思考・判断・表現を評価する)、授業後に提出するレポートによる平常点40%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									

科目名		ベーシックレッスン2			年度	2024
英語表記		Basic lesson 2			学期	後期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	前期振り返り	フィードバック	1 譜面配布	楽譜の基礎が理解できる	3	
			2 楽譜読み方	譜面を正確に読める		
			3 楽譜解析	音楽の言語が理解できる		
2	音感鍛錬	耳コピー	1 音符学習	音符の種類がわかる	3	
			2 休符学習	休符の遣い方ができる		
			3 音の特性学習	音の長さが理解できる		
3	リズムの重視	リズム修正	1 パート分け	パート別に音が聞き分けられる	3	
			2 耳コピ	音の高さを記憶できる		
			3 音色確認	音楽の構成がわかる		
4	パート確認	誤音訂正	1 リズム重視	リズムを正確に取れる	3	
			2 歌唱練習	歌のリズムが整う		
			3 発声方法学習	曲の響きが良くなる		
5	歌唱発表	発声練習	1 譜面読譜	各パートで音の安定感が増す	3	
			2 パート分け	パート同士の調和が取れる		
			3 音程の確認	歌のハーモニーが感じられる		
6	チーム結成	合唱編成	1 パート毎歌唱	歌の発表がスムーズになる	3	
			2 音色確認	パートごとの特色が出る		
			3 発表技法	アンサンブル感が増す		
7	リズム理論	複雑なリズムへの対応	1 チーム編成	チームでの連携が向上する	3	
			2 チーム練習	歌の練習が効率的になる		
			3 歌唱スキル向上	チーム内のコミュニケーションが増す		
8	曲分析	曲解析技法	1 リズム討議	リズムの統一感が増す	3	
			2 ダイナミクス討議	ダイナミクスのバランスが取れる		
			3 音楽解釈	歌に表情が増す		
9	中間発表	フィードバック	1 チーム発表	歌唱の技術が向上する	3	
			2 歌唱評価	チームの協力が感じられる		
			3 表現方法学習	表現力が豊かになる		
10	声色理論	声のニュアンス	1 シンコペ学習	シンコペーションの理解が深まる	3	
			2 タイと休符	休符の使い方が洗練される		
			3 意識的な歌唱	曲のニュアンスが出る		
11	テクニック学	歌唱技法	1 チーム分け	曲の深い部分が理解できる	3	
			2 曲解析	アナライズを基に歌が改善される		
			3 深掘り練習	練習がより具体的になる		
12	ステージ学	パフォーマンス	1 パフォーマンス	パフォーマンスの基礎ができる	3	
			2 ステージング	表現の幅が広がる		
			3 表現力向上	ステージングが向上する		
13	最終リハーサル	総合練習	1 リズム確認	全体のリズムが安定する	3	
			2 ダイナミクス確認	ダイナミクスのコントロールができる		
			3 総合技法	パフォーマンスが一体となる		
14	発表会	本番模擬	1 授業発表	授業内容が総合的にわかる	3	
			2 発表技法	発表時の緊張が和らぐ		
			3 聞き手としての評価	歌の完成度が高まる		
15	まとめ	学期総括	1 復習	前期の内容が確認できる	3	
			2 知識確認	スキルの定着を確認できる		
			3 スキル振り返り	成果を振り返れる		

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等

科目名	ベーシックレッスン 2							年度	2024
英語科目名	Basic lesson 2							学期	後期
学科・学年	ミュージックアーティスト科 ヴォーカリストコース 1年次	必／選	必	時間数	210	単位数	7	種別※	実習
担当教員	平山雅月	教員の実務経験		有	実務経験の職種		ミュージシャン		
【科目の目的】 個々の個性を抑えつつ、協力して一つの楽曲を作り上げる能力を養い、異なるダイナミクスや声質、ウィスパーヴォイス、発音など2つの声質を考慮できるようにする。授業内で2つの課題曲を披露し、ヴォーカリストとしての基礎力を養う。音楽全般に関する基礎知識を身につけ、レベルに合わせたトレーニングを通じて各種オーディションやコンテストに備え、実践的なスキルを磨く。									
【科目の概要】 ヴォーカリストとしての基礎力を身につけるため、基礎レッスンを行うとともに、音楽全般に関する基礎知識を学んでいきます。また、ソロやバンドなどレベルにあわせたトレーニングを実施。各種オーディションを受けるにあたっての準備、進め方を学び、実践していきます。									
【到達目標】 A. 個々が好き勝手に歌う事ではなく個性を抑えつつ他者と協力し合いながら共に一つの楽曲を作り上げる事ができる。 B. ダイナミクスや声質、ウィスパーヴォイスや発音等において、2種類の声質を考えることができる。 C. 課題曲2曲を授業内で披露する事ができる。									
【授業の注意点】 この科目は開講曜日により担当教員が異なります。専門学校は、社会人としての行動・あり方を学ぶ「職業訓練」の場であるという考えから、他の授業・実習と同様、出席状況については厳しく評価する。また、授業中の態度（居眠り、私語など）にも厳しく対応する。卒業後の自分自身の生きる力を得るものであり、自分自身のこととして主体的な考え方を持ち、積極的な姿勢で授業に参加してほしい。なお、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック 評価	レベル3 優れている	レベル2 ふつう			レベル1 要努力				
到達目標 A	個々が好き勝手に歌う事ではなく個性を抑えつつ他者と協力し合いながら共に一つの楽曲を作り上げる事ができる	他者と協力し合いながら共に一つの楽曲を作り上げる事ができる			到達目標Aについてさらなる努力が必要				
到達目標 B	ダイナミクスや声質、ウィスパーヴォイスや発音等において、2種類の声質を考えることができる	ダイナミクスや声質、ウィスパーヴォイスや発音等において、1種類の声質を考えることができる			到達目標Bについてさらなる努力が必要				
到達目標 C	課題曲2曲を授業内で披露する事ができる	課題曲1曲を授業内で披露する事ができる			到達目標Cについてさらなる努力が必要				
【教科書】 適時、講師より教材を配布する。									
【参考資料】 特になし									
【成績の評価方法・評価基準】 評価基準はルーブリック評価に基づき、14回目にて授業内発表を行い、その巧拙を判定する。60%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、授業後に提出するレポートによる平常点40%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									

科目名		ベーシックレッスン2			年度	2024
英語表記		Basic lesson 2			学期	後期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	前期復習	基礎再確認	1 楽器特徴学習	楽器特徴を理解する	3	
			2 機材の選定	適切な機材を選べる		
			3 機材の操作	機材の操作ができる		
2	音の確認	声部訓練	1 音の確認	各パートの音を知る	3	
			2 バンド編成	正確にパートを歌える		
			3 アンサンブル歌	アンサンブルが強化される		
3	構成	楽曲構造	1 構成の学習	前奏を完璧に理解する	3	
			2 前奏の練習	間奏を正確に把握する		
			3 間奏の練習	アウトロの構造を掴む		
4	ダイナミクス	音楽表情	1 ダイナミクス学習	ダイナミクスを感じられる	3	
			2 感情の表現	表情豊かに演奏する		
			3 強弱の調整	感情を音に変換できる		
5	リズム技法	アーティキュレーション	1 リズムの練習	スタッカートの理解	3	
			2 スタッカート学習	タイの正確な実行		
			3 タイの練習	リズムをしっかりキープ		
6	パフォーマンス	演奏実践	1 パフォーマンス入門	ステージでの立ち振る舞い	3	
			2 ステージ動き	観客との繋がりを持つ		
			3 演出の工夫	演奏中の姿勢が良くなる		
7	音の再確認	和音分析	1 音の再確認	各パートの音を再確認	3	
			2 バランスの取り方	音のバランスがとれる		
			3 アンサンブル練習	アンサンブルの進化		
8	構成再確認	楽句解釈	1 構成の再学習	構成要素を再度掴む	3	
			2 アウトロの練習	再度のアウトロ学習		
			3 繋ぎ方の工夫	曲全体の流れをつかむ		
9	ダイナミクス2	演奏実践	1 ダイナミクス応用	ダイナミクスを自在に扱う	3	
			2 音量のコントロール	音量を適切に調整する		
			3 演奏の調整	各楽器の調和を深める		
10	リズム深掘り	楽曲分析	1 リズムの応用	16分のリズムを理解	3	
			2 リズムの発展	高度なリズムができる		
			3 16分のリズム	正確なリズムキープ		
11	パフォーマンス2	拍子練習	1 本番に向けた練習	実際のリハーサル技法	3	
			2 総合的な確認	リハーサル中の注意点		
			3 リハーサルのポイント	効果的なリハーサル法		
12	16分リズム	実技調整	1 授業発表準備	実際の演奏を体験する	3	
			2 本番に向けて	発表技術を磨く		
			3 発表のコツ	グループでの連携を高める		
13	リハーサル	演奏評価	1 前期内容の確認	学んだことの振り返り	3	
			2 学んだ点の振り返り	前期の内容を整理する		
			3 成果の確認	自己評価ができる		
14	授業発表	演奏実践	1 曲の構造学習	曲の構造学習ができる	3	
			2 エンディング練習	エンディング練習ができる		
			3 楽曲の理解	楽曲が理解できる		
15	まとめ	実践振り返り	1 復習	復習の仕方がわかる	3	
			2 知識確認	知識確認ができる		
			3 スキル振り返り	スキル振り返りができる		

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等

科目名	ベーシックレッスン 2							年度	2024
英語科目名	Basic lesson 2							学期	後期
学科・学年	ミュージックアーティスト科 ヴォーカリストコース 1年次	必／選	必	時間数	210	単位数	7	種別※	実習
担当教員	郁川舞	教員の実務経験		有	実務経験の職種		ミュージシャン		
【科目の目的】 ヴォーカリストとして、6つの音楽キーでコード系楽器の奏法や楽譜の読み方を基礎から学び、音感やハーモニー感覚を向上させ、実践的な音楽知識を身につける。基礎レッスンや幅広い音楽知識の習得を通じて、自身のレベルに合わせたトレーニングを行い、各種オーディションやコンテストに備え、実践的なスキルを身につける。									
【科目の概要】 ヴォーカリストとしての基礎力を身につけるため、基礎レッスンを行うとともに、音楽全般に関する基礎知識を学んでいきます。また、ソロやバンドなどレベルにあわせたトレーニングを実施。各種オーディションを受けるにあたっての準備、進め方を学び、実践していきます。									
【到達目標】 A・6種類のKeyにおいて、コード系楽器の基礎的な奏法を身につける。B・6種類のKeyにおいて、楽譜を読む力をつけたうえで、音感やハーモニー感覚を向上させる。C・6種類のKeyにおいて、コードなど実践に役立つ音楽的知識を身につける。									
【授業の注意点】 専門学校は、社会人としての行動・あり方を学ぶ「職業訓練」の場であるという考え方から、他の授業・実習と同様、出席状況については厳しく評価する。また、授業中の態度（居眠り、私語など）にも厳しく対応する。卒業後の自分自身の生きる力を得るものであり、自分自身のこととして主体的な考え方をもち、積極的な姿勢で授業に参加してほしい。なお、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック評価	レベル3 優れている	レベル2 ふつう			レベル1 要努力				
到達目標A	6種類のKeyにおいて、コード系楽器の基礎的な奏法を身につける	2種類のKeyにおいて、コード系楽器の基礎的な奏法を身につける			到達目標Aについてさらなる努力が必要				
到達目標B	6種類のKeyにおいて、楽譜を読む力をつけたうえで、音感やハーモニー感覚を向上させる	2種類のKeyにおいて、楽譜を読む力をつけたうえで、音感やハーモニー感覚を向上させる			到達目標Bについてさらなる努力が必要				
到達目標C	6種類のKeyにおいて、コードなど実践に役立つ音楽的知識を身につける	2種類のKeyにおいて、コードなど実践に役立つ音楽的知識を身につける			到達目標Cについてさらなる努力が必要				
【教科書】 配布プリント									
【参考資料】 特になし									
【成績の評価方法・評価基準】 評価基準はルーブリック評価に基づき、試験50%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、授業内発表30%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、平常点20%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									

科目名		ベーシックレッスン2			年度	2024
英語表記		Basic lesson 2			学期	後期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	C/Am音階基礎	課題1解説	1 課題曲①解説1	課題曲①を理解する	3	
			2 Cメジャースケール	Cメジャースケール習得		
			3 Aメロマイナースケール	Aメロディック練習		
2	C/Am音階強化	演奏法	1 課題曲①解説2	課題曲①の深化解説	3	
			2 Cメジャースケール	Aハーモニック練習		
			3 Aメロマイナースケール	Cメジャースケール応用		
3	F/Dm音階入門	課題1深化	1 課題曲①解説3	課題曲①の詳細解説	3	
			2 Fメジャースケール	Fメジャースケール習得		
			3 Dメロマイナースケール	Dメロディック練習		
4	F/Dm音階強化	演奏法	1 課題曲②解説1	課題曲②の基本解説	3	
			2 Fメジャースケール	Dハーモニック練習		
			3 Dメロマイナースケール	Fメジャースケール応用		
5	B♭/Gm音階基礎	課題2解説	1 課題曲②解説2	課題曲②の詳細解説	3	
			2 B♭メジャースケール	B♭メジャースケール習得		
			3 Gメロマイナースケール	Gメロディック練習		
6	B♭/Gm音階強化	演奏法	1 課題曲②解説3	課題曲②の応用解説	3	
			2 B♭メジャースケール	Gハーモニック練習		
			3 Gメロマイナースケール	B♭メジャー応用練習		
7	中間発表	課題2深化	1 音階練習1, 2	中間発表の準備	3	
			2 課題曲①選択演奏	課題曲選択技能		
			3 課題曲②選択演奏	パフォーマンス技術習得		
8	E♭/Cm音階基礎	中間発表	1 課題曲③解説1	課題曲③の基本解説	3	
			2 E♭メジャースケール	E♭メジャースケール習得		
			3 Cメロマイナースケール	Cメロディック練習		
9	E♭/Cm音階強化	課題3解説	1 課題曲③解説2	課題曲③の詳細解説	3	
			2 E♭メジャースケール	Cハーモニック練習		
			3 Cメロマイナースケール	E♭メジャー応用練習		
10	G/Dm音階実践	演奏法	1 課題曲③解説3	課題曲③の応用解説	3	
			2 Gメジャースケール	Gメジャースケール習得		
			3 Dメロマイナースケール	Dハーモニック練習		
11	G/Dm音階応用	課題3深化	1 課題曲④解説1	課題曲④の基本解説	3	
			2 Gメジャースケール	Dメジャースケール習得		
			3 Dメロマイナースケール	Bメロディック練習		
12	D/Bm音階習熟	演奏法	1 課題曲④解説2	課題曲④の詳細解説	3	
			2 Dメジャースケール	Bハーモニック練習		
			3 Bメロマイナースケール	Dメジャー応用練習		
13	D/Bm音階達成	課題4深化	1 課題曲④解説3	試験対策技術習得	3	
			2 Dメジャースケール	課題曲選択能力		
			3 Bメロマイナースケール	Aメジャースケール習得		
14	試験対策	実践練習	1 試験対策	試験課題演奏技術	3	
			2 課題曲選択	指定曲習得		
			3 Aメジャースケール	後期の学びの整理		
15	総括	実技試験	1 実技試験	実技試験で演奏ができる	3	
			2 後期のまとめ	後期の学びの整理ができる		
			3 講師指定演奏	講師の指定するフォーマットで演奏ができる		

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等

科目名	ベーシックレッスン 2							年度	2024
英語科目名	Basic lesson 2							学期	後期
学科・学年	ミュージックアーティスト科 ヴォーカリストコース 1年次	必／選	必	時間数	210	単位数	7	種別※	実習
担当教員	柿崎・小野・早川			教員の実務経験	有	実務経験の職種		ミュージシャン	
【科目の目的】 2つの課題曲において、基礎的な歌唱力を身につけ、自己をヴォーカリストとして表現できるスキルを構築する。学内発表の範囲内で継続的な歌唱法を確立し、ヴォーカリストとしての基礎力を向上させ、音楽全般の基本知識を学ぶ。個々のレベルに合わせたトレーニングを行い、オーディションやコンテストに備え、進行方法を学び実践する。									
【科目の概要】 ヴォーカリストとしての基礎力を身につけるため、基礎レッスンを行うとともに、音楽全般に関する基礎知識を学んでいきます。また、ソロやバンドなどレベルにあわせたトレーニングを実施。各種オーディションを受けるにあたっての準備、進め方を学び、実践していきます。									
【到達目標】 A. 課題曲2曲に関して、基礎的な歌唱力を体得している。 B. 課題曲2曲に関して、ヴォーカリストとしての自己を発信できる状態を作っている。 C. 学内発表の範囲内で、歌唱法に、継続性が見込める。									
【授業の注意点】 専門学校は、社会人としての行動・あり方を学ぶ「職業訓練」の場であるという考え方から、他の授業・実習と同様、出席状況については厳しく評価する。また、授業中の態度（居眠り、私語など）にも厳しく対応する。卒業後の自分自身の生きる力を得るものであり、自分自身のこととして主体的な考え方をもち、積極的な姿勢で授業に参加してほしい。なお、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック 評価	レベル3 優れている	レベル2 ふつう				レベル1 要努力			
到達目標 A	課題曲2曲に関して、基礎的な歌唱力を体得している	課題曲1曲に関して、基礎的な歌唱力を体得している				到達目標Aについてさらなる努力が必要			
到達目標 B	課題曲2曲に関して、ヴォーカリストとしての自己を発信できる状態を作っている	動画アップロードの方法を体得している				到達目標Bについてさらなる努力が必要			
到達目標 C	学内発表の範囲内で、歌唱法に継続性が見込める	歌う曲の譜面を提出することができ				到達目標Cについてさらなる努力が必要			
【教科書】 適宜プリントを用意する。									
【参考資料】 特になし									
【成績の評価方法・評価基準】 評価基準はルーブリック評価に基づき、試験40%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、授業内発表30%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、平常点30%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									

科目名		ベーシックレッスン2			年度	2024
英語表記		Basic lesson 2			学期	後期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	基本指導	実演資料理解	1 資料の学習	コード譜を理解する	3	
			2 コード譜理解	メロ譜の読解ができる		
			3 歌詞作成法	歌詞の構築ができる		
2	音域	音域の把握	1 指導（8）	楽曲指導（8）に従う	3	
			2 進行の確認	初歩のアレンジができる		
			3 フィードバック	楽曲の構築ができる		
3	メロディ制作	リズムやキーの把握	1 指導（9）	楽曲指導（9）に従う	3	
			2 楽曲構成習得	中級アレンジができる		
			3 応用技術学習	楽曲改良の習得		
4	曲指導1	歌唱法	1 指導（10）	楽曲指導（10）に従う	3	
			2 演奏技法導入	応用アレンジができる		
			3 表現力向上	メロディ構築の技術習得		
5	曲指導2	歌唱法	1 指導（11）	楽曲指導（11）に従う	3	
			2 楽曲の解析	高度なアレンジができる		
			3 リズムの指導	楽曲の深度を増す技術		
6	曲指導3	歌唱法	1 指導（12）	楽曲指導（12）に従う	3	
			2 メロディの検討	複雑なメロディを構築		
			3 アレンジ方法	歌唱法の基本が身につく		
7	中間歌唱	中間評価	1 歌唱法学習	発声法の習得	3	
			2 発声の方法	ハーモニーの理解		
			3 声のコントロール	中間の楽曲確認ができる		
8	ライブへの意識1	パフォーマンス	1 オリジナル歌唱	歌唱と楽曲のマッチング	3	
			2 中間確認	楽曲の改善点を洗い出す		
			3 歌詞のブラッシュ	楽曲の強化		
9	ライブへの意識2	パフォーマンス	1 楽曲見直し	楽曲指導（13）に従う	3	
			2 改善点の検討	実践的なアレンジ技術		
			3 修正の実践	楽曲指導（14）に従う		
10	曲指導4	歌唱法	1 指導（13）	楽曲の総合力を高める	3	
			2 楽曲編集技法	楽曲指導（15）に従う		
			3 終盤の確認	楽曲の完成度を上げる		
11	曲指導5	歌唱法	1 指導（14）	楽曲指導（16）に従う	3	
			2 エフェクト応用	楽曲の最終確認技術		
			3 最終調整法	楽曲発表の技法習得		
12	曲指導6	歌唱法	1 指導（15）	聴衆への伝達力向上	3	
			2 実践練習	楽曲制作の全体を理解		
			3 楽器の調和	授業内容の振り返り		
13	曲指導7	歌唱法	1 指導（16）	完成曲の再確認	3	
			2 発表技法	発表技術の向上		
			3 音の最終調整	評価とフィードバック		
14	成果発表	パフォーマンス発表	1 楽曲発表	楽曲のクリティカルリスニング	3	
			2 聴衆の反応	合唱技法の習得		
			3 全体の振り返り	ボーカルハーモニー理解		
15	総括	講評フィードバック	1 まとめ	楽曲のマスタリング技術	3	
			2 理解の確認	講評の内容を理解し、作品に取り入れることができる		
			3 今後への展望	今後に向けての学習内容の計画を立てることができる		

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等

科目名	ベーシックレッスン 2							年度	2024
英語科目名	Basic lesson 2							学期	後期
学科・学年	ミュージックアーティスト科 ヴォーカリストコース 1年次	必／選	必	時間数	210	単位数	7	種別※	実習
担当教員	河原レオ・南慶樹	教員の実務経験		有	実務経験の職種		作編曲		
【科目の目的】									
音楽制作において、2つの異なるジャンルに対応した作曲技術や編曲技術を身につけ、授業指定のデジタルアプリケーションやDAWの操作方法を習得し、ステムデータを提出できるスキルを養う。これらを通じて、ヴォーカリストとしての基礎力を向上させ、音楽全般に関する基本知識を学び、適切なトレーニングを経て、オーディションやコンテストに備え、進行方法を習得して実践する。									
【科目の概要】									
ヴォーカリストとしての基礎力を身につけるため、基礎レッスンを行うとともに、音楽全般に関する基礎知識を学んでいきます。また、ソロやバンドなどレベルにあわせたトレーニングを実施。各種オーディションを受けるにあたっての準備、進め方を学び、実践していきます。									
【到達目標】									
A・2種類のジャンルに合わせた作曲の技術を身につけること B・2種類のジャンルに合わせた編曲の技術を身につけること C・DAW並びに授業指定のデジタルアプリケーションの操作方法をステムデータが提出できる範囲で身に着けること									
【授業の注意点】									
専門学校は、社会人としての行動・あり方を学ぶ「職業訓練」の場であるという考え方から、他の授業・実習と同様、出席状況については厳しく評価する。また、授業中の態度（居眠り、私語など）にも厳しく対応する。卒業後の自分自身の生きる力を得るものであり、自分自身のこととして主体的な考え方をもち、積極的な姿勢で授業に参加してほしい。なお、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。									
評価基準＝ループリック									
ループリック 評価	レベル3 優れている	レベル2 ふつう			レベル1 要努力				
到達目標 A	2種類のジャンルに合わせた作曲の技術を身につける	2種類のジャンルに合わせた作曲の技術を説明できる			到達目標Aについてさらなる努力が必要				
到達目標 B	2種類のジャンルに合わせた編曲の技術を身につける	2種類のジャンルに合わせた編曲の技術を説明できる			到達目標Bについてさらなる努力が必要				
到達目標 C	DAW並びに授業指定のデジタルアプリケーションの操作方法をステムデータが提出できる範囲で身に着けること	DAW並びに授業指定のデジタルアプリケーションの操作方法を説明できる			到達目標Cについてさらなる努力が必要				
【教科書】									
講師オリジナル教材など									
【参考資料】									
特になし									
【成績の評価方法・評価基準】									
評価基準はループリック評価に基づき、提出物課題60%(知識及び技能のほかには思考・判断・表現を評価する)平常点40%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									

科目名		ベーシックレッスン2			年度	2024
英語表記		Basic lesson 2			学期	後期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	課題③基礎	基礎理解	1 課題曲③紹介	課題曲③の概要理解	3	
			2 基本制作法	基本的構造把握		
			3 楽曲構造	メロディの要素認識		
2	課題③旋律	旋律作成	1 課題曲③分析	課題曲③の解析技法習得	3	
			2 コード進行	リズムの基礎知識		
			3 リズム感得	ハーモニーの理解深化		
3	課題③和声	和声適用	1 課題曲③練習	楽曲のメロディ作成能力	3	
			2 メロディ作成	楽曲背景知識習得		
			3 アレンジ法	楽器役割の理解		
4	課題③リズム	リズム設計	1 課題曲①応用	楽曲制作の全体像把握	3	
			2 楽器選定	コード構築能力習得		
			3 ダイナミクス	アレンジメント基礎		
5	課題③完成	初稿完成	1 課題曲③発表	楽曲の完成形態理解	3	
			2 評価方法	楽曲評価基準知識		
			3 フィードバック	改善点の特定能力		
6	課題④導入	テーマ性	1 課題曲④紹介	課題曲④の概要理解	3	
			2 再構築法	応用的構造把握		
			3 エフェクト利用	複雑リズムの解析能力		
7	課題④テクニック	楽器配置	1 課題曲④分析	和声の拡張知識習得	3	
			2 録音技法	テクスチャー理解強化		
			3 ミックス調整	楽曲の変化・発展認識		
8	課題④構造	曲構成	1 課題曲④練習	複雑メロディ作成能力	3	
			2 進行変更	ブリッジ部分構築能力		
			3 サウンド選択	アレンジの応用知識		
9	課題④編曲	編曲進行	1 課題曲④応用	楽曲発表の準備能力	3	
			2 和声技法	楽曲の詳細な評価技法		
			3 テクスチャー	音楽制作の最終調整能力		
10	課題④評価	自己評価	1 課題曲④発表	リズムとメロディ統合	3	
			2 曲の展開法	楽曲のテーマ設定能力		
			3 ブリッジ作成	楽曲の変更・修正技法		
11	課題⑤発展	スキル向上	1 課題曲⑤紹介	楽曲全体の流れ理解	3	
			2 音域活用	リスニング技法習得		
			3 モチーフ展開	楽曲の構造変更能力		
12	課題⑤高度技法	テクニカルな作曲	1 課題曲⑤分析	楽曲の表現力向上策	3	
			2 実践的評価	音色選択の基本知識		
			3 リスニング会	楽器の演奏法理解		
13	課題⑤楽器編	音色選択	1 課題曲⑤改善	曲構造の創造的変更能力	3	
			2 音色調整	アレンジの最終調整		
			3 エディット技法	MIDI編集技術習得		
14	課題⑤マスタリング	DAW技術	1 課題曲⑤完成	マスタリングの基礎	3	
			2 最終ミックス	音楽のジャンル理解		
			3 マスタリング	コードの応用技法		
15	課題⑤公開	総仕上げ	1 課題曲評価	リミックス技術習得	3	
			2 ポートフォリオ	楽曲プレゼンテーション技法		
			3 フィイナルレビュー	レビューを通じて今後への展望が把握できる		

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等